



国際会長

2020-2021年度主題

Jacob Kristensen (DK)

「価値観・エクステンション・リーダーシップ」

“Values, Extension and Leadership”

アジア太平洋地域会長 David Lua (SG)

「変化をもたらそう」 “Make a Different”

東日本区理事

板村哲也 (東京武蔵野多摩)

「変化をたのしもう」 “Le’s enjoy Changes”

クラブ会長

鈴木 茂

「相手の立場に立って考え、行動しよう！」

スローガン：「思いやりのあるクラブ運営」

2019-2020 クラブ役員

会長 鈴木 茂

副会長 辻 剛

書記 今城 高之

会計 鈴木 恭子

今月の聖句

「天使は言った。『恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。

あなたがたは、布にくるまって飼いの葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。

これがあなたがたへのしるしである。』」

(ルカによる福音書2章10、12節)

12月本例会

私たちのクラブでは、12月の本例会を横浜YMCAのクリスマス礼拝・祝会に参加することで実施することが恒例となっています。残念ながら今年は、これまでのようなみんなが集まっての礼拝や祝会が行われず、「紅葉坂教会」で礼拝を行い、その様子がYouTubeでライブ配信されることになりました。また、今年は礼拝後の楽しい祝会も行われません。

礼拝に参加される方も、ご自宅でYouTubeで参加される方も以下のURLで申し込み 一緒にクリスマスをお祝いしましょう。

<https://bit.ly/36AIP1F>



《巻頭メッセージ》

新しい日常

福島佐世子



世界中、また私にとっても大変な2020年でした。

海と船が大好きな夫と学生時代に神戸YMCAの海のキャンプリーダーをしていた海の大好きな私は、家族のレジャーはすべて海絡みで、水泳、ダイビング、魚釣りで息子たちを育ててきた家庭でした。

気の合った私たちは、夫が退職したら「つづきワイズ」に加えていただくということになり、一足先に私が入会させて頂きました。しかし、若々しくて健康体だった夫に予想もしなかった異変が次々起こり、遂に認知症と認定され介護生活に入りました。私も頑張りはしましたが10年間に及ぶ介護にも限界がきて、一年ほど前に施設にお預かりいただき、私は生まれて初めての一人暮らしをすることになりました。やっと自由になれたとの思いもありましたが、思いのほか辛い日々の始まりでした。ワイズ仲間の先輩のように「歳に関係なくその時々青春を楽しもう」と自分に言い聞かせ、家中の整理に手を付け始めたらコロナ禍が始まり、自粛生活を強いられることになりました。感染予防に心がけての毎日ウォーキングでも、春はすぐそこだ！そのうち疫病から解放されるだろう、とひたすら希望をもちつつ身を守ることに神経を集中してきましたが、この10年間の過労から次々と病気にかかってしまい、いつの間にか心も体も変わってしまったことを思い知りました。

これまで経験したことのない、逃げ場のない現実の中に居る気がします。季節の移ろいすら虚ろで、春を告げる木蓮が咲き始め、桜も咲いたかしら？もう散ったかしら？息をするのも苦しい猛暑もあったような気もするな！と思ううちに秋も過ぎ去ってしまい、冬が訪れたようです。

転勤で遠くに行っている息子や、近くにいっても毎日都内に出かける息子や孫たちとの接触も断ち、不要不急の外出を控えているうちに段々引き籠りになり、外出が億劫で怖くなり、お腹は空くけど食事を作るのが面倒になりました。友人達との井戸端会議も食事会もできないので、ご迷惑とは思いつつも電話をしている時だけ寂しさを忘れますが、また一人になると耐えられない虚しさを感じる日々です。

何とか一人でもできる俵せポイントを見つけて、前向きの明るい自分になり、新しい日常に抵抗感なく馴染まないといけないと思います。新しい日常は辛く「神様助けて下さい」と手を合わせている自分がいますが、その一方、WEB配信を含めた教会の礼拝に与れることや、ワイズメンズクラブの例会に出席してマスク越しながら笑顔で挨拶を交わし、興味深い卓話を聞いて元気を頂いています。また、ワイズでのマスク作りやカード作りに参加して密を避けつつの手作業やおしゃべりに励まされています。これからどうぞよろしくお願いいたします。(完)

《講演会報告》 都筑区社協主催講演会「withコロナ時代の地域活動の進め方」 参加報告

去る12月3日に、都筑区社協が開催した講演会「withコロナ時代の地域活動の進め方」（講師：都筑区医師会副会長、都筑区コロナ対策委員長 小林雅子医師）には当クラブからも数人が参加し様々な学びを行いました。参加した岡崎さよ子ワイズの報告をご紹介します。

1. 新型コロナウイルスとは？

ヒトに感染するコロナウイルス6種類とは異なる病原体で主に呼吸器感染を起こす。

2. 新型コロナウイルス感染症とは？

- ・潜伏期間： 最大14日間
- ・症状：発熱、呼吸器症状（せき、のど痛み、鼻水等）、頭痛、倦怠感、臭覚障害・味覚障害、下痢・嘔吐等消化器症状
- ・感染可能期間：発症日の2日前から

3. 地域活動での課題

- ・感染拡大防止のための外出自粛（リスク軽減）
- ・人の集まり、顔を合わせる交流の制限
- ・社会的つながりの希薄化、その長期化
- ・社会経済活動の停止、高齢者の孤立化、身体・精神的ストレス増加、長期休校による子供の心の問題、減収や失業による生活困窮状態

4. 特に高齢者に起こっていること

- ・自粛による閉じこもり、フレイルで動けなくなる（フレイル：運動、栄養、口腔、心理の低下で虚弱化）
- ・精神的に落ち込んで活動性が落ちる

- ・認知症が進行する

- ・医療機関に行けず持病が悪化

- ・家庭内のストレスに巻き込まれる

- ・家族が疎遠になり孤立化する

5. 地域活動に向けての共通ルール

- ①手洗い・手指消毒
- ②マスクの着用
- ③身体的距離の確保（1～2m）
- ④直近で体調が悪い人は参加を自粛
- ⑤参加者の連絡先の把握

6. 地域活動の具体的取組

- ・時間を分けて少人数で開催する
- ・定期的に換気を行う
- ・プログラムを工夫して飛沫防止に心がける
- ・人と人の間隔を1～2mに保つ
- ・対面で座らない
- ・消毒を徹底する
- ・開催時間を短くする
- ・参加者名簿をつける
- ・屋外でのメニューを考える
- ・会食時の対応（包装、配食、パーティション等）

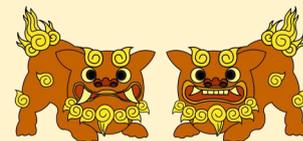
7. アイディア・工夫

- ・講師などは外から呼ばず地域の顔ぶれで集まる
- ・参加できない人にお手紙や地域の広報などを送る
- ・電話やオンラインを利用する
- ・自宅でできることを考える（マスク作りなど）

《会長のひと言》

“沖縄部の独立に思う”

会長 鈴木 茂



湘南・沖縄部はさる10月24日（土）に開催された臨時部評議会において、沖縄クラブから提案のあった同クラブを3分割して、湘南・沖縄部から独立した沖縄部を新設するという議案を、現在実質的に休会状態にある沖縄那覇クラブの意向を部長が直接確認することを条件に承認しました。もちろん最終決定は、東日本区における役員会や代議員会の決議を待たなければなりません。沖縄部の独立が沖縄におけるワイズ活動の大きな前進になることは間違いないことと思われま。

ワイズにおける沖縄と湘南地区との関係は、1966年に横浜クラブがスポンサーとなって沖縄那覇クラブを設立して以来、50年以上の歴史を有し、この間毎年1回は必ず沖

縄を訪問するなど、両地域の間には緊密な関係が続いてきました。それだけに、在沖縄クラブの湘南・沖縄部からの離脱は、心情的には友と別れるような寂しさを禁じえません。しかし、在沖縄諸クラブの結束強化のためには、沖縄に根ざした独自の部を設立することは意義深いことと考えられます。さらに、ワイズによる沖縄YMCAの支援強化のためにも、沖縄部の独立は大きく資するものと考えられます。このうは、現在実質的に休会中の沖縄那覇クラブが活動を再開し、沖縄部の一員として沖縄YMCAのためにさらに貢献されることを期待したいと思います。 以上

《例会報告》

2020年11月本例会

報告 岡田美和

日時：11月27日（金）17:00~19:00
 場所：かけはし都筑
 司会：今城高之 受付：岡田美和
 出席：相賀、今城T・H、岡崎、岡田、鴨下、胡麻尻、
 鈴木K・S、辻Ts・Ta、林、福島、三木、横田
 ビジター：大野君枝、坂口直樹、中村 靖
 （計17名）

《概要》

1. 開会点鐘 会長
2. ワイズソング・ワイズの信条 一同
3. 今月の聖句・祈祷 相賀チャプレン
「今月の聖句 ヘブライ13:13-14」
4. ゲスト・ビジター紹介 司会・会長
5. 会長挨拶
6. 卓話 中村 靖さん
（工学博士・島根県森林インストラクター）

「樹木資源の活用と感動樹木ウォッチングの勧め」

中村さんは定年退職後、農山村の過疎化・衰退を憂慮、特に樹木資源を活用する社会の消滅に危機感を感じ、森林インストラクターとして樹木・森林の価値や魅力をPRする活動を行っておられます。

一部：樹木資源の活用の必要性

- 石油資源に依存した都市集中社会からの脱却
- 日本の林業崩壊からの回避
 - ・林業従事者は以前の10分の1以下に
 - ・日本の森林資源活用率は諸外国に比べ著しく低い
- 直面している問題点として
 - ・石油への過度な依存から生じるCO2排出による地球温暖化問題
 - ・農山村の衰退、都市への過剰集中
- これからの樹木資源の活用として
 - ・エネルギー源としての樹木の新しい活用（バイオマス）
 - ・新技術による木材利用の拡大
 - ・樹木の楽しみ・樹木ウォッチングや森林浴の普及など日本には樹木資源がある。それを活用してゆとりある社会造りを目指す。

二部：感動樹木ウォッチングの勧め

感動樹木ウォッチングを通じて樹木への関心を高め、樹木資源を活用する社会の復活につなげたい。感動的な樹木を

見て楽しむ趣味。

- ・感動を与える樹木のタイプ
巨樹・巨木、華麗樹木、美樹美林、史跡樹木、思い出の樹木、面白樹木
- ・感動樹木ウォッチングの魅力は気軽に楽しめる。四季を通じて楽しめる。自分のペースで楽しめる。散策が中心なので体が鍛えられる。心が豊かになり頭の体操にもなる。感動樹木ウォッチングで樹木の恵みを楽しみ、心身ともに健やかに過ごしましょう。

具体的な活動

- ・感動樹木ウォッチングのホームページ立ち上げ
(<http://kandoujumoku.com>)
- ・「緑を楽しむ会」主催 NPO法人みんなの家
インストラクター-中村 靖
- 7. 協議・報告事項
 - ・12月事務例会・クリスマス会
12月8日(火) 17:00~田園都筑教会プレゼント交換
 - ・本例会・横浜YMCAクリスマス
12月19日(土)15:00~16:00 @紅葉坂教会
 - ・坂口直樹氏入会について
1月本例会(クラブ総会)で入会式挙行の予定
 - ・2021年2月本例会
北Yとの交流会に替え、かけはし都筑にて開催。
鴨下北Y館長(担当主事)の卓話
- 8. 今後の行事予定 (別途掲載)
- 9. YMCA報告(鴨下純久館長)
 - ・今年のチャリティランは変則実施となるが、北YMCAより4チーム参加させる予定。
募金協力をお願いします(YMCAマスク(千円))
- 10. 閉会点鐘

(11月本例会のパノラマビュー)



(11月の実績データ)

例会出席	17名	在籍会員数	16名	各種記録	11月実績	年度累計
メンバー	14名	月間出席者数	15名	スマイル	3,000円	40,090円
ビジター	0名	メ-キップ	2名	-	-	-
ゲスト	3名	月間出席率	93%	-	-	-



《例会報告》

12月度事務例会・クリスマス会

2020年12月8日(火) 17:00~19:00

場所 田園都筑教会

出席者：今城T・H、岡崎、岡田、鈴木K・S、辻Ts、
福島、林、横田

ゲスト：高松満至さん (計11名)

黙祷をもって開会し、鈴木会長より今年最後の事務例会が開催できたことへの感謝が述べられ協議へ移る。

1. 協議事項

- ①2021-22年度クラブ人事につき、辻次期会長より資料により提案があった。主な役職として、会長辻剛、副会長林茂博(次々期会長含み)、書記鈴木茂、会計横田孝久で参加者が了承して1月のクラブ総会にて正式決定することとなった。
- ②会長より、石巻広域クラブによる「3.11メモリアル被災地支援プロジェクト」の紹介ならびに同プロジェクトへの募金(1万円)の提案があり承認した。物品購入については各自の判断に委ねられた。
- ③会員増強につき、再度表の提示があり、各自候補者を指名するよう要請があった。なお、候補者はプリン発送先リストに加えるためメルアドの取得が要請された。

2. 今後の行事予定 (下段の表参照)

3. 活動報告

- ①東日本区事務所が当面閉鎖されることとなった旨報告があった。
- ②湘南・沖縄部エクステンション委員会(12/15)はZOOMのみで開催される。

4. クリスマスプレゼント交換

各自が持ち寄ったクリスマスプレゼントを抽選で交換し、ささやかながらクリスマス気分に入る。



(プレゼント交換をし、その後懇親会は自粛して散会)



当クラブのTKBお仕事会では、前号でも報告したとおり、宮城県山元町の特養老人ホーム「みやま荘」へ手作りマスクをお送りしたのに続き、同じく山元町の「つばめの杜保育所」の3~5歳児たち95人に手作りクリスマスカードを作って先日お送りしました。これら二施設へは東日本大震災直後より毎年慰問を続けてきましたが、今年はコロナの影響で慰問は叶わずマスクとカードで支援の思いをお伝えいたしました。



(当面のクラブ行事スケジュール)

月 日	概 要	時 間	場 所	備 考
12/19(土)	横浜YMCAクリスマス礼拝	15:00~	紅葉坂教会	YouTube配信あり
1/12(火)	1月事務例会	17:00~	田園都筑教会	
1/22(金)	1月本例会・クラブ総会	17:00~	かけはし都筑	坂口直樹さん入会式
2/9(火)	2月事務例会	17:00~	夢Café	
2/26(金)	2月本例会	17:00~	かけはし都筑	鴨下純久さん卓話
3/9(火)	3月事務例会	17:00~	田園都筑教会	
3/26(金)	3月本例会	17:00~	かけはし都筑	吉原訓さん卓話

・日時: 2020年11月28日(土) 15:00~16:40
 ・場所: 横浜中央YMCA606教室(Zoom併用)
 ・出席者: 出席者数: 14名(会場出席13名、Zoom出席1名)。委任状/14名。
 出席義務者37名に対して、出席者総数28名となり評議会は成立。(辻副会長が出席。)

・冒頭、古田会長より横浜クラブ金子ワイズ召天の知らせがあり、30秒間の黙祷をもって冥福を祈った。
 議事は、古田議長のもとに進められた。

【議案審議結果】

第1号議案 次期部長選出について: 議長より次期部長に若木一美ワイズ(とつかクラブ)の推薦があり承認。

第2号議案 CS支援金の支給について: 担当主査に替って峯尾ワイズより説明があり、同一年度内に実施結果報告書を提出することを条件に、次の案件が承認された。
 (鎌倉クラブ:室内サッカー大会/30,000円、横浜とつかクラブ:ユニーフ支援事業/30,000円、横浜つづきクラブ:「つばめの杜保育所」被災地支援活動/30,000円)

第3号議案 湘南・沖縄部&横浜YMCA合同新年会について: 部長より、コロナ禍により合同新年会の開催を見合わせたいとの提案があり、承認された。

第4号議案 沖縄への部長公式訪問について: 部長より、明年2月20日に計画していた沖縄への部長公式訪問は、コロナ禍を考慮して、オンラインで行うとの説明があり、承認された。(沖縄クラブ、沖縄那覇クラブ合同で行うか、個別に行うかなど具体的な日程、方法については、今後、当事者間で協議する。なお、沖縄那覇クラブに関しては、現在、会員1名による休会状態にあるが、国際協会は会員3名以上でないとクラブとして認めないため、3名にすることを模索中らしいとの報告があった。)

第5号議案 部則改正委員会の設置について: 部長より、部則改正について、部則改正委員会の設置、活動期間、委員会構成メンバーについての提案があった。

【委員会構成メンバー(案)】

委員長:古田和彦(部長)、委員:伊藤誠彦(部書記)と沖縄2クラブを除く各クラブ代表者で構成し、オブザーバーとして峯尾監事が参加する。

●委員会構成メンバーについては、各クラブを代表する委員は、必ずしもクラブ会長でなくても良く、適任者をクラブ内から選出し、その結果を古田委員長に報告すれば良い、ことを条件に承認された。

●第3回部評議会(2021年4月17日開催予定)での承認

を目標に、2~3回の会合を予定している。

【報告・連絡事項】

1) 部大会会計報告

部長より、部大会収支差額34,700円を礼拝献金44,890円に加えてポジティブネット預金に献金したとの報告があった。

2) 東日本区役員会

部長より、第2回区役員会の特記事項として、東日本区法人化準備委員会の設置が承認され、部内の委員として加藤利榮、若木一美、齋藤宙也、古田和彦ワイズが選ばれた。更に、オブザーバーとして辻剛・東日本区監事が指名された、との報告があった。

3) 部長活動報告

部長より、7月25日の第1回部評議会以降の活動報告のうち特記事項として、沖縄那覇クラブの長嶺将邦ワイズに沖縄部創設に対する意見を聞いたところ、沖縄クラブが沖縄YMCAとどのような関係を築いていくのか、当面、見守りたいとの意向であった、と報告があった。

4) エクステンション委員会報告

辻委員長より、11月30日に横浜寿地区なか伝道所に三森牧師を訪問しマスク100枚の贈呈、12月15日(火)とつかYMCAで第3回目のマスク贈呈式の実施、引き続いての第4回エクステンション委員会(ハイブリッド)にて、Change! 2022推進委員会の栗本委員長の卓話を予定していることなどの報告があった。

(注)その後、現下のコロナ状況に鑑みて、湘南とつかYMCA、横浜とつかクラブの皆様と協議し、戸塚でのマスク贈呈式および栗本委員長の卓話は延期し、エクステンション委員会はZOOMのみの会議に予定を大幅に変更した。

5) 各クラブ会長活動報告

特記事項として、横浜クラブが12月12日に予定していた創立90周年記念式典を当面延期することを決したこと、金沢八景クラブが年3回実施しているミニバスケット大会は前2回中止したが、3回目はなんか実施する計画であること、横浜つづきクラブには新会員が1名入会する予定であること、などが報告された。

【監事講評】

・峯尾監事より、次の講評があった。

部によるCS支援金のクラブへの支給制度は、沖縄クラブが100人を超える会員を擁して創立された際、部の財政に余裕ができた(部費=1,500円x会員数)ことから始まった制度である。現状にはそぐわないため、その廃止も視野に入れて制度の見直しをすることを執行部にお願いする。

以上

《湘南・沖縄部 臨時評議会 議事メモ》

去る10月24日に召集された湘南沖縄部の臨時評議会の概要を報告します。

同臨時会議は、湘南・沖縄部長に対する10月14日付沖縄クラブ伊藤書記よりの連絡への対応を検討するためのもの。

沖縄クラブ伊藤書記からの連絡の概要は以下の通り；

◇現在湘南・沖縄部に所属する沖縄部は、湘南地域における健全な活動に困難を感じており、より沖縄地域への特化を図り沖縄YMCAへの支援を強化するため、新たに西日本区に所属する沖縄部を創設し加盟する。

◇進め方として、沖縄クラブは会員増強を図り、21名以上に達した時点で3分割して新クラブを含め3クラブ体制とし、新設の沖縄部に所属する。

◇湘南・沖縄部への伝達、東日本区の承認を得たうえで、本件につき西日本区への説明を行い承認を得る。

◇新体制への移行を2021年7月1日とする。

本件に関し、古田湘南・沖縄部長は個人的見解として、沖縄の「独立」には基本的に賛成であるが、既存の「那覇クラブ」(休会中)の同意を前提条件とした。

沖縄クラブ伊藤書記（ZOOM参加）によると、

- ①那覇クラブ会長へは1年前より打診はしており、今回も改めて意向を質した。
- ②那覇クラブの最近の集会で話し合いがもたれ、結論には達しなかったが、基本的には反対はなく、新体制への参加は那覇クラブメンバーの各個人の意向に委ねられる模様。
- ③沖縄部が設立されたのち、那覇クラブのみが湘南・沖縄部に残る意向は読み取れない。

湘南・沖縄部としては、本件は前例のないケースであり、今後、湘南・沖縄部の意向を東日本区理事に正確に伝えたいと、東日本区の定款にあるクラブの「解散」条項に則って進めるべきとの結論に至り、部長が以下の通り総括した。

- ①沖縄クラブの申し出通りに進めることに同意する。
- ②那覇クラブも含め円満な移行が行われるよう、部長が那覇クラブの意向を聴取する。
- ③沖縄クラブ会長によ正式な申し出の提出を求める。

以上をもって臨時評議会を閉会した。

北 Y 便利

横浜北YMCA 主任 野田 智裕



今年度は新型コロナウイルスの影響により、様々な活動が制限を余儀なくされました。「新しい生活様式」により、マスク着用やアルコール消毒など、これまで日常の生活の中では習慣化することのなかったことが普段の生活の中に取り込まれるようになりました。また、11月半ばから感染者が徐々に増え始め、過去最多を記録する地域も出てくるなど日々不安と隣り合わせの中で生活しています。どの組織でも不特定多数の人が集まる研修や会議はオンラインに代わり、YMCA内の研修・会議もオンラインで行うようになりました。画面越しに話をするのは未だに違和感を覚えますが、いち早くコロナが収束し画面越しではなく、対面で話をしたいものです。

さて、私が担当している発達障がい児への支援活動の一環として、9月末にSCジョンソン株式会社からの支援を受け、子どもたちとご家族を対象にして日帰りプログラムを実施しました。内容は三浦YMCAにてカヤックと磯遊び体験とソレイユの丘での散策を行いました。14家族57名が参加し、秋空の元、海辺で活動することができました。

「今年は家族で外出する機会がつかれない中、このような機会を作ってくださりありがとうございました」といったお声をいただきました。来年度も継続して実施できるよう引き続きジョンソン株式会社との関係を大切にしていきます。

また、今年度から新たに保護者を対象にした障害理解の勉強会をオンラインで毎月開催しています。月毎にテーマを変え、年齢層に合わせた内容であることや在宅で受講できることから参加している方々から好評をいただいています。保護者以外にも保育園の保育士やYMCAのリーダーも参加し、発達障がいのある子どもたちへの対応に役立っているようです。

今年も残りわずかとなり、寒さが一段と厳しくなってきました。体調を崩さぬようお過ごしいただき、素敵なクリスマスと良いお年をお迎えください。



《特別寄稿》

辻 剛

〈甲府ワイズメンズクラブ創立70周年記念に因んで〉

・先日、甲府クラブ70周年記念誌を送っていただいた。湘南・沖縄部にも12月12日に創立90年を迎えた横浜ワイズメンズクラブという歴史と伝統のあるクラブがいまだに健在ですが、90年にしろ70年にしろこれだけ長く活動を続けてきたという事実は本当にすごいことだと感動すら覚えます。このような長寿クラブは今後はなかなか出てこないのではないのでしょうか。

・ここで突然若干私事になり恐縮なのですが、最近調べたことがあり「日本ワイズメン運動70年史」を2度目の通読をする機会がありました。その際、一度目のときにはには見逃していた甲府クラブに関連する記述を発見し、小さな驚きをもって読んだ記事があります。それは次のようなものです：「この大会に参加した小菅東洋（甲府）は高校教師であった。出発の日甲府駅には多くの見送りの人垣があった。汽車が動き出した時、母教会の牧師がプラットフォームを走りながら叫んだ。『船の中で使徒行伝を読んだぞ』。小菅25歳。皆、若かった。小菅は、後の山梨英和学院山梨英和短期大学学長である。」（102頁）

（注）「この大会」とは「1955年（昭和30）年8月14日－23日、世界YMCA同盟創立100周年記念を記念してパリで開催された世界ワイズメンズ協議会のことである。

・さて、古い話して恐縮ですが、私の父（辻一郎）は1936年、青山学院神学部を卒業し、監督の任命によって日本

メソジスト勝沼教会の牧師として伝道の第一歩を踏み出しました。その勝沼教会時代に私の父母が大変お世話になったのが勝沼に住んでおられ、信徒でもあった小菅東洋さんご一家でした。長じて小菅東洋さんも青山学院大学に学ばれ、当時学院構内に住んでいた我が家に毎日のように出入りしていました。その後我が家と小菅東洋さんとは生涯を通じてお付き合いがありました。私が成人してから何度か父に連れられて勝沼の小菅家のドウ園をお訪ねして、おいしい葡萄を御馳走になった記憶があります。

おそらく現在の甲府クラブの皆さんは小菅さんをご存知ないと思い、この話を甲府クラブの仙洞田安宏ワイズ（東日本区ヒストリアン）のお耳に入れましたところ、「小菅さんをご存知だしたら、おそらく亡くなられた平原貞美さん、布能壽榮さん、大澤英二さんくらいではないでしょうか。70年とはそういうものなのでしょうね。」との連絡をいただきました。いずれにしても、私にとってはあの“東洋さん”が設立されて5年しかたっていない甲府クラブに所属されていたことがあった、という発見は大変な驚きでした。と同時に甲府クラブに何となく親しみを感じ70周年記念を心よりお祝いしたい気持ちになった次第です。甲府クラブの皆様、70周年記念、誠におめでとうございます。今後もこれまで同様、東日本区、あずさ部、地元山梨において中心的な存在としてワイズダム発展のためにリーダーシップを発揮してください。

以上

本誌4頁に掲載したTKBの作ったクリスマスカードをお送りしたところ、つばめの杜保育所の作間所長より以下のお手紙を頂きました。

横浜つづきワイズメン&ウィメンズクラブ
辻 剛 様

先日はかわいいクリスマスカードを送っていただきありがとうございました。
今年は毎年行っている保育所内でのクリスマス会もコロナ感染対策の為、プログラムカット、時間短縮で楽しみも半減・・・という感じです。
クリスマスカードをいただき、今はクリスマス会当日に子どもたちに渡すことを楽しみにしている職員一同です。本当にありがとうございました。
師走が近づき、寒さもだいが感じられるようになってきました。世の中はコロナ感染も深刻さを増し、田舎のこちらでも感染が心配されるようになってきています。

どうぞお体にお気をつけてお過ごしください。

つばめの杜保育所
作間

▽今年も残すところあと僅か、コロナに明けコロナに暮れた年と
なってしまうました。一日当たり感染者数の記録が日々塗り替え
られていきます。▽そんな中、先日召天された横浜クラブ金子功さ
んを偲ぶ会が催され、当クラブからも何名かがZOOMで参加さ
せて頂き、それぞれ思い出をひと言述べさせていただきました。
当クラブのYOU&Iコンサートを楽しみにして下さりほぼ毎年
ご来場頂いたことが記憶に残ります。もし、今年もコンサートが
開催できていれば如何されたかしらと思えます。きっと、ご来場
くださったことと思います。偲ぶ会参加者のほぼ全ての人が語っ
たのは金子さんの「笑顔」でした。多くの人が、その笑顔に元氣
づけられたと語っておられました。金子さんが神様の御もとで安
らかに過ごしておられることを切にお祈りいたします▽懸案の湘
南・沖縄部次々期部長を当クラブ、厚木、つるみの3クラブから
輩出することとなり、先般三者で下打ち合わせを行いました。ど
うなるのでしょうか。沖縄クラブより、湘南・沖縄部から独立し
て新部（沖縄部仮称）を創立する意思ありとの表明がありました
た。今後様々な変化が訪れる予兆でしょうか。（編集子）

▽▽▽編集後記△△△

《付録》 長年ワイズにつながってはいても、では今期の国際会長はどこの何方か、と聞かれるとすぐに答えが出てこない方も少なくないでしょう。かく申す「編集子」も、あわててハンドブックを引っ張り出してきて、ああそうなんだ、と気づく有様です。国際組織の一員と言いつつも、普段の活動では「国際的」な香りが漂うこともありません。そこで今回は、紙面に余裕が出来たのを幸いに、東日本区のホームページに掲載されている「国際会長ニュース」を転載して、現在の私たちの国際会長をご紹介します。

(主題)

Values, Extension and Leadership

(スローガン)

Trust in the River of Life



会員の皆さまへ

自己紹介をさせていただきます。私はデンマークのリンケピング出身のジェイコブ・クリステンセンと申します。ランディと結婚しています、私たちは、ふたりとも引退しています。私たちの間には5人の子供と1人の孫がいます。私は、1981年にYMIに入会しました。私は、これまでにワイズダムにおいて、組織の様々なレベルでいくつかの役職に就いていましたが、今は、国際会長の職に専心いたします。

今期の私のスローガンは「命の川を信じよう」です。これは、新約聖書のヨハネの黙示録22章1-5節からの言葉です。聖霊は、「命の川」です。私たちは皆、命の川を土台にして、人生を築き上げていく機会を持っています。「命の川を信じよう」、これが私の希望です-私たちは、皆で全人類のためにより良い世界を築くのです。

私の任期中の主題として選んだのは「価値観、エクステンション、リーダーシップ」です。私たちの運動における3つの礎石です。私たちは、人生の中で、私たちの運動の中で、どのような価値観を持っているのでしょうか？それは、非常に大切な問題です。自分自身と自分の価値観を知ってください。どうぞそのことについて考えてください。エクステンションは、成長のための基本的なプラットフォームです。エクステンションは、収支のバランスや、活動の条件を改善してくれます。しかし、会員増強・維持啓発も非常に重要なことです。私たちは、入会してくれた人たちを大切にしなければなりません。私たちは、新入会員がワイズメンの仲間になっていると感じられるように、新入会員全員をクラブに迎え入れる義務があります。

リーダーシップについては、私たちは、YMIが将来も成長できるように、常に組織の中でリーダーや才能のある人を探していることが重要です。また、私たちは、誰もがこのリーダーの仕事をしていくことができるわけではないことを忘れてはいけません。したがって、そのために私たちは、様々な委員会とトロイカの仕組みを持っています。チームによって、私たちは、違いを生み出すことができます。皆さまが私と一緒にYMIのより良い状況を目指して旅をしていただくことを期待し、信じています。